

加曽利かわらばん

2018.2号

第2回ワークショップの結果報告



第2回加曽利貝塚グラントデザイン及び史跡整備基本計画に関するワークショップを、平成30年2月8日(木)13時30分～15時30分@加曽利貝塚博物館にて実施しました。参加者19名による活発な意見交換がなされました。

01 当日のプログラム

1 開会の挨拶を文化財課の森本さんから頂きました。

2 ワークショップの目的と前回の振り返りを行いました。

3 グラントデザインや史跡整備の案を説明しました。

4 グループワークを行い、発表を行いました。

5 全体での意見交換を行い、まとめを行いました。



02 グループに分かれた話し合いの内容

①案に基づく意見交換 ②エリアの価値向上

A班



〈おもったこと〉
 ・千葉市には遺跡が多数あるので、貝殻見たりだけでは感動しない。
 ・縄文人の村や生活には興味がある。体験や宣伝を通して、まずは知ってもらうのが大事である。
 ・はじめは千葉市、次は千葉県と来てくれる人が増えていくといい。
 〈導入したいコト・モノ〉
 ・堅穴住居で、縄文人の村の生活の様子を実際に再現する。
 ・アピール映像を、youtube等の動画掲載サイトに載せる。
 ・縄文土器を各区役所に展示する。
 ・堅穴式住居で縄文の生活体験などいろいろな学習体験ができる。

〈コミュニティの形成〉
 ・犬の飼い主と行政の両者が得する仕組み。
 〈魅力のアピール〉
 ・地域にアピールする縄文クツキーなどの品物や土産物の開発・販売
 ・あえて不便につくり、自然の部分も残す。
 ・目に見える土器の配置
 〈場所による集客〉
 ・環境や予算を考慮し、自転車の誘致を増やす。
 ・緑地と貝塚を核とした「貝塚サイクリングロード」
 「縄文スタンプラリー」

B班



〈導入したいコト・モノ〉
 ・小学校等の子供達が描いた縄文に関する絵を飾る。
 ・貝塚を剥してアクリル板で固めて見やすくする。
 ・特別緑地を利用したアスレチックアドベンチャー施設。
 〈体験学習〉
 ・特別緑地で、バードウォッチングや昆虫観察などの自然体験学習。
 ・加曽利人より前の時代の炉を発見。
 ・炉を復元して焼肉や燻製体験
 ・河原に大豆の原種が生えている。
 ↓豆入りご飯を炊くなどの体験

〈影響力による集客〉
 ・イベントごとに有名人を呼ぶ。
 ・マスコミの力を借りる。
 〈イベントによる集客〉
 ・地域の祭りやラジオ体操等、または今は廃れてしまった風習や歳時記に関するイベントの実施
 ・豆作りを親子ボランティア等で行う
 〈場所による集客〉
 ・老若問わず親しめるグラントゴルフ場等のグリーンを設ける
 ・犬を散歩している人が利用するコナーやスペースを設ける。
 ・コミセンや図書館、子供の遊び場といった、地域住民が毎日訪れたいような場所とする。

C班



〈おもったこと〉
 ・学習か観光のどちらかにコンセプトをまとめるべきである。
 ・加曽利ならではの特色を考えて、将来像を持つべきである。
 〈導入したいコト・モノ〉
 ・縄文時代の樹木を用いて森の景色と貝塚の姿の両者を生かす整備。
 ・他の博物館では扱っていない「塩」を扱ってはどうか。
 ・千葉駅からの直通バスによるアクセスの改善。
 ・アスレチックや縄文の森など、植栽を用いた具体的な公園やハイキングコースの設計。

〈コミュニティの形成〉
 ・犬の散歩の方や昆虫サークルの方々に各々に所属してもらい、開発計画を話し合いたい。
 ・保健師に週一度来てもらうなどして高齢者の集える空間を形成する。
 ・開発によって、静かな環境が壊されるのが心配である。
 ・開発により商店街が活性化する。
 〈魅力のアピール〉
 ・木漏れ日の素敵な場所で土器づくりをしている。
 ・春の縄文祭りで、ドキドキ土器のアレゼントを実施予定。
 ・専門家を呼ぶ等、土日の来館者へのガイドが手薄なことへの対策を打つ

03

話し合いのまとめ

加曽利の魅力さをさらに引き出す意見や、アイディアがたくさん挙がりました。

- ① 今回の案に対して
 ・学習か観光のどちらかにコンセプトをまとめるべき。
 ・加曽利ならではのコト・モノを用いた、体験学習イベントを行ってはどうか。
 ・ただの貝塚ではなく、縄文時代の暮らしをみせる。
 ・貝塚を見やすく整備。
 ・直通バスによりアクセス性を高める。

② 加曽利と地域

- ・犬を散歩する人など様々な人と繋がり、地域一丸となつて計画に取り組み。
- ・広報やイベント、新しい施設などを活用し、たくさんの人に加曽利に来てもらう。
- ・「ドキドキ土器」のプレゼントや「縄文クツキー」のような、地域の土産品を開発。
- ・自然観察などに関する専門家を呼び、ガイド不足の問題を解決する。
- ・緑地と貝塚を自転車で繋ぐ。

これらの意見を踏まえ、グラントデザイン及び史跡整備基本計画の最終案を作成します。

04 今後の進め方

- ① グラントデザイン案の作成
- ② 意見交換会などの実施
- ③ 地域の意見・関わり方

本日のワークショップの内容を踏まえつつ、今後も継続的にご意見を頂きながら、進めます。